

とっとり学力・学習状況調査グランドデザイン（案）

子どもたち一人ひとりの関心意欲の向上・確かな学力の定着

背景

- 新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善が必要
- 若手教員の急増により、組織的な指導力向上が必要

調査の目的

児童生徒一人一人の学力の伸びや学習状況を測ることにより、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における学習指導の充実や授業改善の推進等に役立てる。また、そのような取組を通じて、継続的なR（リサーチ）－P D C Aサイクルの確立と徹底を図り、本県全ての児童生徒の学力向上に資する。

背景

- 全学年の児童生徒の学力の状況を把握することが必要
- 学力の経年変化を、データに基づいて見取ることが必要

学校における学習指導の充実、授業改善の推進

- 調査日 4月
- 調査対象 小学校第4学年～中学校第2学年
- 調査内容 国語、算数・数学、質問紙

教育施策の成果と課題の検証、改善

調査結果の詳細な分析、活用
各学校、各市町村教育委員会、県教育委員会

とっとり学力・学習状況調査を活用した取組

- ◇学力向上R－P D C Aサイクルの確立と徹底
 - ・子ども一人一人の学力・学習状況の把握
 - ・校内で効果的な取組を共有
 - ・一人一人に応じた復習シート、指導カルテ（とりっこのびのびシート）の活用
- ◇県教育委員会と市町村教育委員会が連携した学力向上に係る取組
 - ・「活用問題集」を活用した授業改善の取組（B－P L A N）
 - ・「小学校算数単元到達度評価問題」を活用した授業改善の取組

非認知能力や学習方略に関する指導

- ◇非認知能力（自制心、自己効力、勤勉性、やり抜く力等）
学習方略（学びに向かうときの態度や学習の仕方）
について分析し、学習指導に活用

児童生徒一人一人の学力を確実に伸ばす教育の推進

家庭との連携

- ◇面談、学校便り等での活用
- ◇「家庭学習の質の向上に向けた実践事例集」の活用

個人結果票

- ◇個人に対するフィードバック
 - ・教科、質問紙調査の結果
 - ・学習に関するアドバイス

とっとり学力・学習状況調査を活用した取組

- ◇県教委と地教委が一体となった学校訪問
 - ・学校訪問記録シートの活用
 - ・伸び悩む教員への指導助言
- ◇伸び悩む学校への重点的な支援
- ◇事業実施校へのスーパーバイザーの派遣
- ◇学力を伸ばした取組の抽出と県内での共有（リーフレット、授業映像等）
- ◇復習シートの提供
- ◇分析結果、指導のポイント等を周知
- ◇好事例の県内への発信（教育センターでの研修等）

市町村教育委員会

- ◇県と連携し、各学校の学力向上の取組を支援
 - ・学校訪問での助言
 - ・学力向上事業実施校の選定 等

データに基づき(EBPM)、本県のスモールスケールを強みとした、児童生徒一人一人に応じたきめ細かな指導・支援を行う

とっとり学力・学習状況調査により一人一人の学力の伸びを支援

とっとり学力・学習状況調査の特長

問題ごとに難易度を設定した学力調査を継続して実施することにより、子ども一人一人の学力の伸びを把握し、指導に生かすことができます。

		小4	小5	小6	中1	中2
高 ↑ 難易度 ↓ 低	レベル12					
	レベル11					
	レベル10					
	レベル9					
	レベル8					
	レベル7					
	レベル6					
	レベル5					
	レベル4					
	レベル3					
	レベル2					
	レベル1					

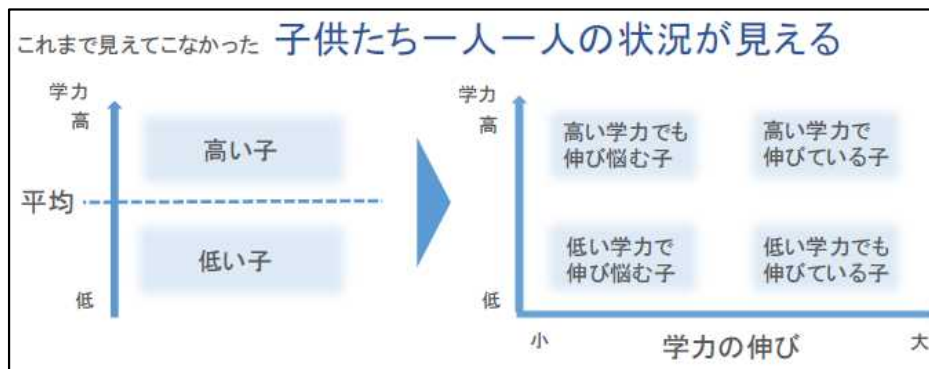
◇全部で12のレベルがあります。(各学年で測定可能なレベルは7レベル)
◇1つのレベルをさらに3層(A~C)に分けています。

【埼玉県と協定を結び、共同実施を予定】

- ◇埼玉県は平成27年度から開始
(毎年約30万人に調査)
- ◇一人一人の学力の伸び(変化)を継続して把握することのできる自治体初の調査
- ◇埼玉県は4年連続で全国学力調査の結果が伸びている
- ◇平成31年度から福島県と共同実施を開始
- ◇平成30年度プラチナ大賞で次世代育成賞を受賞
- ◇中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会(R1.10.29開催)において、本調査について報告

【項目反応理論 (IRT)】

- 出題するすべての問題に同一尺度で難易度を設定
- ◇異なる調査間での学力の比較が可能
- ◇PISAやTOEFLと同様の調査手法

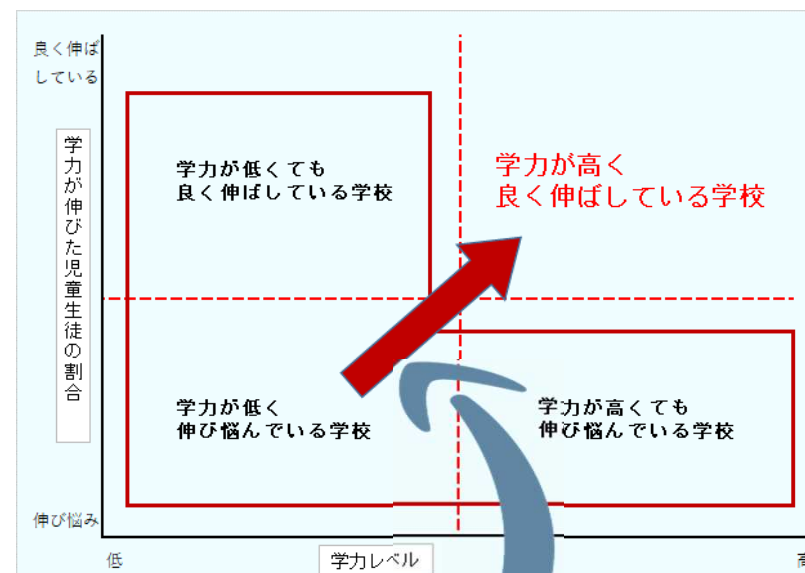
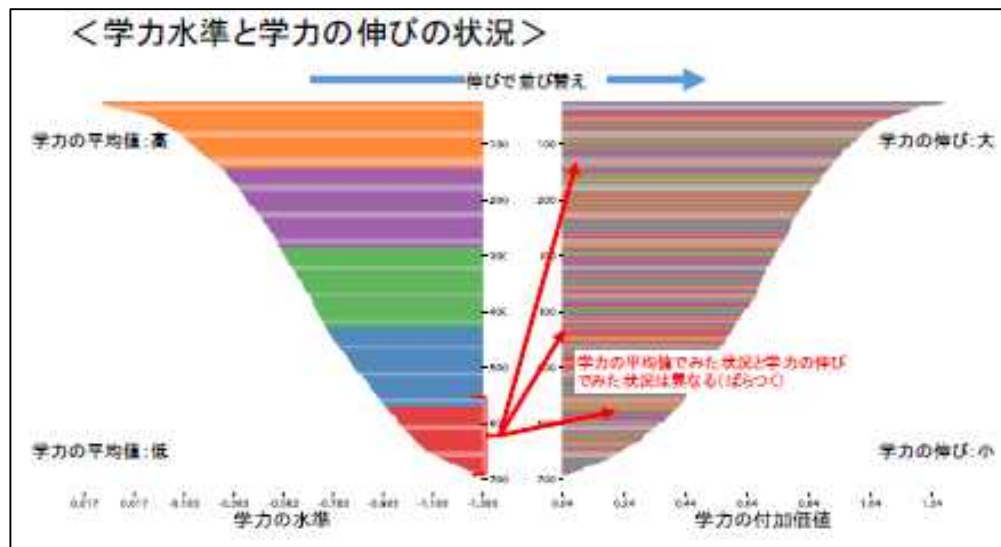


- 伸び悩む子どもには、つまづきを早期に発見し、支援が可能
- 伸びた子どもには、頑張りを認め、一層やる気を引き出したり、より高いレベルへの挑戦を促すための支援が可能

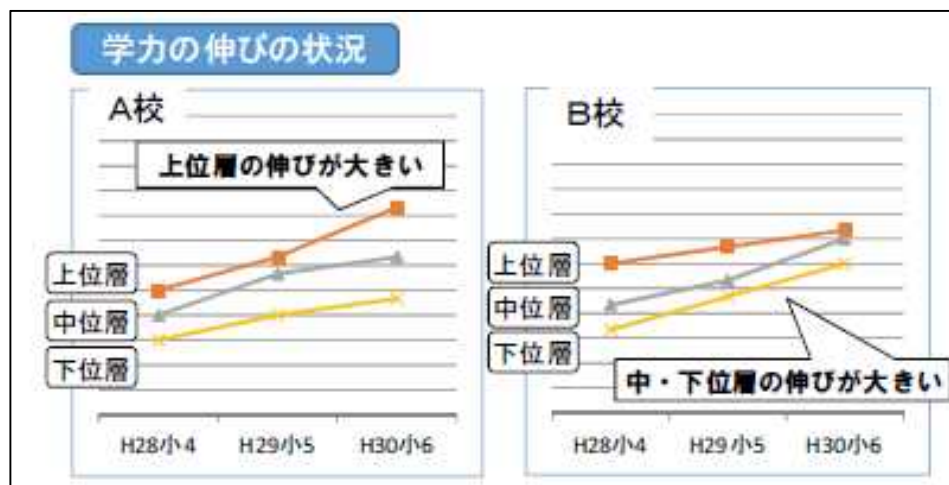
本県のスモールスケールを強みとした、
児童生徒一人一人に応じた
きめ細かな指導・支援の充実



とっとり学力・学習状況調査により地教委と連携して学校を支援



学力が高い学校が学力を大きく伸ばしているとは限らない
 (学力が低い学校が、学力を伸ばしていない学校とは限らない)



学校の実情に応じた重点的な支援

- 管理職の意識改革、マネジメント能力の強化
- 教員の意識改革、授業改善の推進

- 効果的な指導を実施している教員が多い学校
- 教科や学力層を問わず学力を伸ばしている学校

市町村の枠を超えて効果的な
 取組を共有する仕組みづくり



とっとり学力・学習状況調査の結果を活用した取組

- ◇ 県教委と地教委が一体となり、学校訪問で授業改善のポイントを周知、徹底
- ◇ 伸び悩みを抱えている学校への重点的な支援
- ◇ 学力を伸ばした効果的な指導の抽出 → リーフレット、授業映像等で県内に周知
- ◇ 一人一人の学力に応じて活用できる復習シートの提供
- ◇ 一人一人に応じた指導カルテの作成と引継ぎ
- ◇ 校長会、教員研修会等で、分析結果、指導のポイント等を周知

データに基づき(EBPM)、本県のスモールスケールを強みとした、
児童生徒一人一人に応じたきめ細かな指導・支援



将来的には

AIを活用した学びの実践研究

～学力調査等のデータとAIを活用し、一人一人の子どもに応じた指導の実現を目指す～

① とっとり学力・学習状況調査と学校が保有するデータをAIで分析



② AIによる分析結果の活用を、モデル校で実践・検証



個別アドバイスシート

個別学習教材

